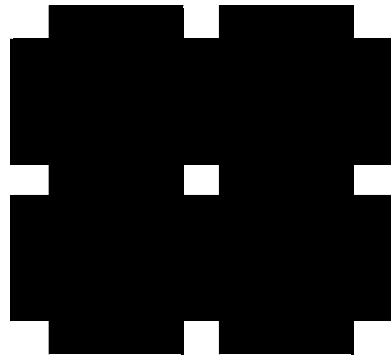


平成 28 年度

# 事業概要



岐阜市保健所食肉衛生検査所

## 目 次

第1章	総 説	
	1 沿 革	1
	2 組織・機構	3
	3 職員構成	3
	4 所轄と畜場及び食鳥処理場	3
	5 と畜場設置許可申請手数料	3
	6 検査手数料等	4
	7 検査所平面図	4
	8 主要検査機器	5
第2章	と畜検査業務	
	1 と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	7
	(2) 月別と畜検査頭数	8
	(3) と畜場外と畜頭数	8
	(4) 緊急と畜検査頭数	8
	(5) 牛産地別出荷頭数	8
	(6) と畜牛月齢	9
	2 と畜検査結果に基づく措置	
	(1) 獣畜のと畜禁止又は廃棄したものの疾病別内訳	9
	(2) 一部廃棄したものの病類別内訳	10
	(3) 過去10年間の疾病別全部廃棄の推移	12
	3 精密検査実施状況	
	(1) 精密検査件数	13
	(2) 残留抗菌性物質検査件数	13
	(3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング調査件数	13
	(4) 枝肉の微生物汚染調査件数	13
	(5) グリア繊維性酸性タンパク (GFAP) 残留量調査件数	13
第3章	食鳥検査業務	
	1 検査羽数	
	(1) 月別食鳥検査羽数	14
	(2) 年度別検査羽数推移	15
	2 精密検査実施状況	
	(1) 微生物汚染調査	16
	(2) 残留抗菌性物質検査件数	16
	(3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング検査件数と内訳	16
	3 検査廃棄処分したものの内訳	
	(1) 検査羽数及び廃棄処分内訳	17
	(2) 月別疾病羽数・処分羽数	18
第4章	その他の事業	
	衛生講習会等の実施状況	19
第5章	調査研究	
	1 調査研究発表一覧	20
	2 平成28年度調査研究	
	食鳥処理における高病原性インフルエンザ防疫体制構築に向けた取り組み	21
第6章	付 表	
	岐阜市食肉地方卸売市場概要	24

# 第1章 総説

## 1. 沿革

大正12年	3月	岐阜市上加納山にと畜場設置(市営と畜場)
昭和24年	12月	法改正により岐阜市が政令市となる と畜検査業務が、岐阜市保健所所管となる
昭和42年	11月	岐阜市茜部5635の1にと畜場を新築移転 岐阜市食肉センターと改称 岐阜市南保健所衛生課と畜検査係となる
昭和48年	1月	岐阜市食肉地方卸売市場として開設許可を受ける
昭和49年	4月	岐阜市南保健所食肉検査課となる
昭和52年	4月	町名変更により岐阜市境川5-148となる
昭和56年	2月	食肉検査室完成 鉄骨平屋建 68㎡
昭和56年	4月	機構改革により岐阜市中央保健所食肉検査課となる
昭和63年	2月	食肉検査室増改築完成 鉄筋コンクリート二階建一部鉄骨平屋建 308㎡
平成 4年	4月	食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律の 施行により食鳥検査業務が食肉検査課所管となる 検査一係 ・ 検査二係となる
平成 6年	4月	名称変更により岐阜市中央保健所食肉衛生検査所 となる
平成 9年	4月	機構改革により岐阜市保健所食肉衛生検査所となる と畜検査係 ・ 食鳥検査係となる
平成11年	4月	名称変更により、と畜検査係が食肉検査係となる
平成12年	4月	機構改革により岐阜市保健福祉部保健所食肉衛生 検査所となる
平成13年	10月	BSEスクリーニング全頭検査開始
平成14年	4月	BSE専用検査室完成
平成15年	4月	機構改革により岐阜市市民健康部保健所食肉衛生 検査所となる 食肉検査グループ ・ 食鳥検査グループとなる
平成17年	4月	と畜検査手数料を改定
平成20年	4月	機構改革により市民健康部が健康部となる
平成23年	4月	機構改革により食肉検査係・食鳥検査係となる
平成25年	7月	BSEスクリーニング検査対象牛が48か月齢超に 変更され、全頭検査が見直しとなる

〒500-8266

岐阜市境川5丁目148番地

電話 (058) 275-1550

FAX (058) 275-1554

## アクセス方法

### ○鉄道利用の場合

#### 1) 駅よりタクシー利用の場合

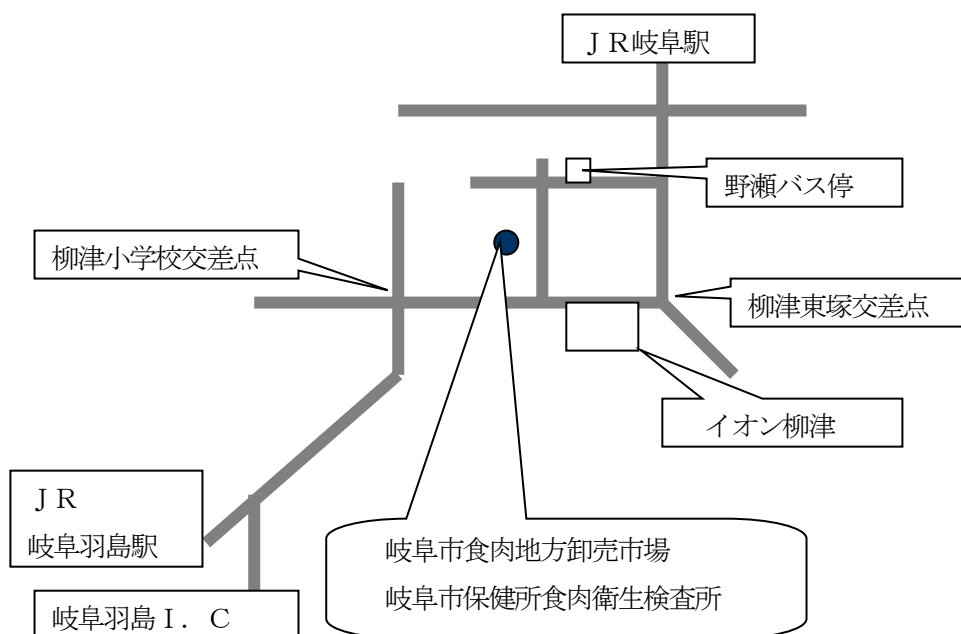
J R岐阜駅、J R新幹線岐阜羽島駅より、「岐阜市食肉地方卸売市場」へ

#### 2) 駅よりバス利用の場合

J R岐阜駅より、岐阜バス三田洞茜部線 「高桑行き」に乗車し野瀬バス停下車後  
前進し最初の交差点を左折し600m南進

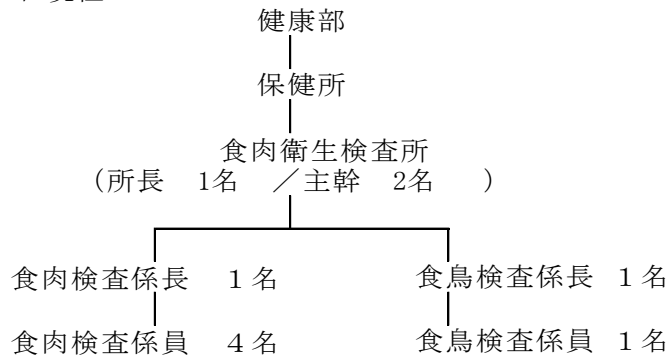
### ○高速道路利用の場合

名神高速岐阜羽島 I. C出口を左折し直進後、県道 151 号（岐阜羽島線）に右折  
直進して県道 1 号に合流して進み柳津小学校前交差点を右折して、9 番目の交差点を  
左折し200m直進



## 2. 組織・機構

平成29年4月1日現在



## 3. 職員構成

平成29年4月1日現在

職名	人数
所長	1
主幹	2
係長	2
主査	1
副主査	3
主任技師	1
嘱託職員	3 (食肉検査係3名)
計	13

## 4. 所轄と畜場及び食鳥処理場

平成29年4月1日現在

所轄	名称	所在地
と畜場	岐阜市食肉地方卸売市場	岐阜市境川5丁目148
食鳥処理場	株式会社ギフシヨク	岐阜市安食491

## 5. と畜場設置許可申請手数料

平成29年4月1日現在

区分	金額(円)	最終改正年月日
一般と畜場	22,000	平成12年3月31日
簡易と畜場	10,000	平成12年3月31日

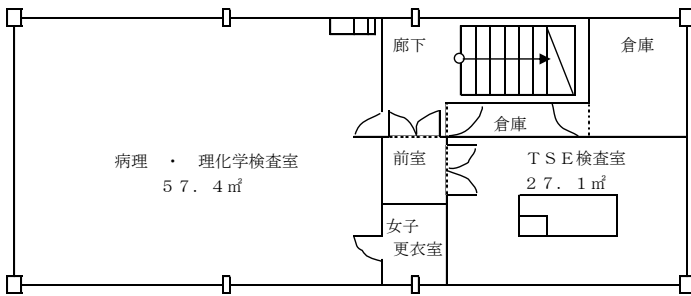
## 6. 検査手数料等

平成29年4月1日現在

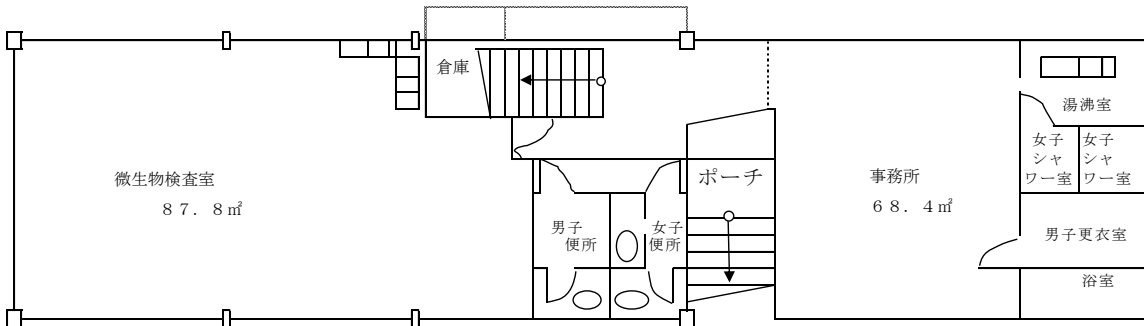
畜種	検査手数料	と畜場使用料	解体料	備考
牛・馬	700	2,592	4,320	
豚	300	864	2,057	枝肉重量100kg以上
	300	864	1,080	
とく	300	864	1,080	
めん羊・山羊	300	864	1,080	
食鳥	3	—	—	

(1頭又は1羽につき 単位：円)

## 7. 検査所平面図



2階



1階

出入口

## 8. 主要検査機器

### 微生物関係

機器名	数量	型 式
デシケーター	2	井内 WVN他
電子上皿天秤	2	メトラー PJ-360 TANITA KD-200
超音波洗浄器	1	ヤマト IC-42
薬用冷蔵庫	6	サンヨー MPR-1011他
ディープフリーザー	1	日本フリーザー VT-208
恒温振盪水槽	1	東洋アドバンテック TS-20S
バイオクリーンベンチ	1	サンヨー MCV-B161F
蛍光顕微鏡	1	オリンパス BHS-RFK-AI型
倒立顕微鏡	1	オリンパス CK2-TR
顕微鏡撮影装置一式	2	オリンパス BH-2 ニコン ECLIPSE Ci、DIGITAL SIGHT DS-L3
現像焼付装置一式	1	オリンパス
スライド投影器	1	キャビン工業オートキャビン
ストマッカー	1	グンゼマスティケーター 400D
ホモジナイザー	1	日立 HG30
フリーザー	1	サンヨー MDF-235
CO <sub>2</sub> インキュベーター	1	サンヨー MC0-175
インキュベーター	2	サンヨー MIR-252
	1	ヤマト IC-102
オートクレーブ	1	サンヨー MLS-3000
	1	サンヨー MLS-3750
乾熱滅菌器	2	ADVANTEC DRM620TB ヤマト SG-81
恒温乾燥機	1	サンヨー MDV-102
DNA増幅装置	2	宝酒造 TP-3000 Verit™ 200
電気泳動装置一式	1	イワキ ALB-301
電気泳動撮影装置	1	フナコシ FP-6000
トランスイルミネーター	1	フナコシ LM-20-E
微量高速遠心器	1	KUBOTA 3520
製氷器	1	ホシザキ KM
デンシトグラフシステム1式	1	バイオ・ラッド・ラボラトリー Gel Doc PCシステム
蒸留水製造装置	1	ADVANTEC RFD240NA
超純水製造装置	1	ミリポア SIMS0000
薬品保管庫	1	セーフティキャビネットSF-5BE

### BSE関係

機器名	数量	型 式
電子上皿天秤	1	ザルトリウス 363-65-58-19
細胞・試料破碎装置	1	安井器械 マルチピーズショッカー
	2	フナコシ FastPrep FP120
電動連続分注器	5	エッペンドルフ マルチヘッドプロ、マルチヘッドstream、マルチヘッドプラス×3
恒温水槽	1	アズワン サーマルロボTR-1A
冷却遠心機	2	クボタ 3615、エッペンドルフ Centrifuge 5417R
ボルテックス	2	VORTEX GENIE2 G560
サーモアルミバス (2槽式)	1	IWAKI DOUBLE ALUMI BATH ALB-301
	1	COOL STAT anatech モデル 5520a
マイクロプレートウォッシャー	2	バイオラッド モデル 1575
マイクロプレートリーダー	2	バイオラッド モデル 550、Thermo Multiskan FC Type357
冷凍冷蔵庫	1	SANYO MEDICOOL MPR-414FS
高圧蒸気滅菌器	1	TOMY精工 KS-323
安全キャビネット	1	HITACHI SCV



理化学関係

機器名	数量	型 式
遠心分離機	2	KOKUSAN H-103N
分光光度計	1	島津 UV-120-02
アスピレーター	1	イワキ ASP-13MDA
恒温器	1	ヤマト IC-102
ロータリーエバポレーター	2	東京理化 N-1000型
電気泳動装置	1	アトー科学
高速液体クロマトグラフ	1	島津 LC-10Aシステム
	1	島津 Nexeraシステム
電子上皿天秤	1	PB303-S 島津Auw220D
超音波洗浄器	1	エルテック UT-30A
ピペット用超音波洗浄器	1	島津 SUS-100PN
薬用保冷庫	3	サンヨー MPR-504他
バイオメディカルフリーザー	1	三洋電気(株) MDF-U338他
赤外線水分計	1	島津 TV-250D
全自動スーパードライシステム	2	スポットケムSP-4410
		スポットケムSP-4430
pHメーター	1	東亜DKK HM-30G
振とう器	1	ヤマト SA300
蒸留水製造装置	1	アドバンティック RFD230RA

病理関係

機器名	数量	型 式
マイクローム 一式	1	ヤマト工機 TU-213
クリオスタット	1	白井松 スターレット2122
パラフィン溶融器	1	池本理化 B1
ドラフトチャンバー	1	ヤマト FRS-120型
実体顕微鏡	1	オリンパス SZH10-131
自動包埋器	1	白井松 オーキット1400P
パラフィン伸展器	1	サクラ PS-52
フリーザー	1	三洋 MDF-330
ドライキーパー	1	島津 ED-130

## 第2章 と畜検査業務

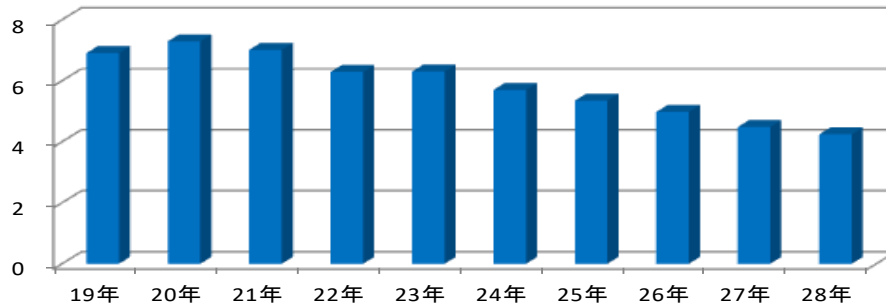
# 1. と畜検査頭数

## (1) 年度別と畜検査頭数

年度 \ 畜種	牛	馬	豚	とく	めん羊 山 羊	総数
19年	6,908		88,368	1		95,277
20年	7,295		80,306			87,601
21年	7,015		74,846	3		81,864
22年	6,290		69,647			75,937
23年	6,306	1	67,975			74,282
24年	5,702		70,467			76,169
25年	5,350		68,880	3		74,233
26年	4,980		69,302			74,282
27年	4,484		67,622			72,106
28年	4,245		68,485			72,730

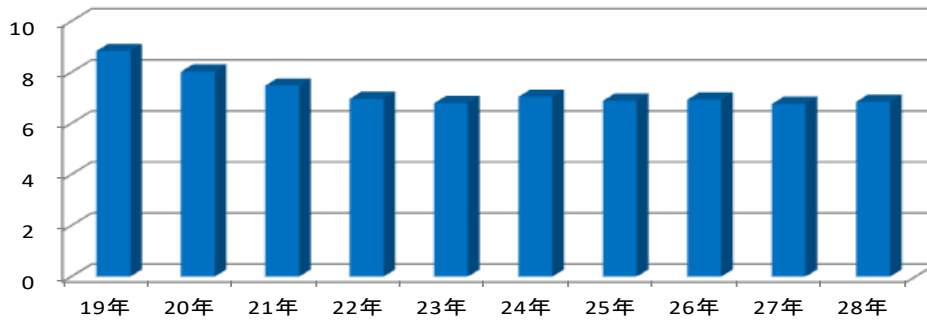
年度別検査頭数(牛)

検査頭数(×千)



年度別検査頭数(豚)

検査頭数(×万)



(2) 月別と畜検査頭数

畜種 月	黒毛和種		交雑種		ホルスタイン種		肉専用種		牛計	とく	馬	豚	めん羊	山羊	総数
	雌	去勢	雌	去勢	雌	去勢	雌	去勢							
4	116	222	2	6	0	2	0	12	360	0	0	5,659	0	0	6,019
5	82	169	3	5	0	2	0	8	269	0	0	5,536	0	0	5,805
6	102	196	1	4	0	2	0	11	316	0	0	5,480	0	0	5,796
7	139	244	3	6	0	2	0	10	404	0	0	4,983	0	0	5,387
8	86	159	1	7	0	2	0	10	265	0	0	5,454	0	0	5,719
9	119	218	0	5	0	2	0	0	344	0	0	6,116	0	0	6,460
10	105	178	0	6	0	2	0	0	291	0	0	6,215	0	0	6,506
11	197	319	2	6	0	3	0	0	527	0	0	6,003	0	0	6,530
12	147	333	1	6	0	2	0	0	489	0	0	6,020	0	0	6,509
1	119	191	0	2	0	2	0	0	314	0	0	5,999	0	0	6,313
2	100	194	0	6	0	2	0	0	302	0	0	5,326	0	0	5,628
3	110	246	2	4	0	2	0	0	364	0	0	5,694	0	0	6,058
総数	1,422	2,669	15	63	0	25	0	51	4,245	0	0	68,485	0	0	72,730

(3) と畜場外と殺頭数

畜種	牛	とく	馬	豚	合計
切迫と殺					
不慮の災害による負傷	0	0	0	0	0
不慮の災害で救うことのできない状態	0	0	0	0	0
難産	0	0	0	0	0
産褥麻痺	0	0	0	0	0
急性鼓脹症	0	0	0	0	0

(4) 緊急と畜検査頭数

畜種	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
牛	0	6	1	2	2	2	2	3	4	2	0	2	26
豚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(5) 牛産地別出荷頭数

出荷県	黒毛和種			交雑種			ホルスタイン種			肉専用種			総計
	雌	去勢	計	雌	去勢	計	雌	去勢	計	雌	去勢	計	
岐阜	1,412	2,655	4,067	15	14	29	0	1	1	0	51	51	4,148
福井	0	0	0	0	49	49	0	0	0	0	0	0	49
静岡	0	0	0	0	0	0	0	24	24	0	0	0	24
神奈川	10	14	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
三重	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
島根	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	1,422	2,669	4,091	15	63	78	0	25	25	0	51	51	4,245

(6) と畜牛月齢

月齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
30か月齢以下	271	195	226	291	200	240	201	397	372	194	198	261	3,046
30か月齢超 48か月齢以下	89	74	90	113	65	104	90	130	117	120	104	103	1,199
48か月齢超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	360	269	316	404	265	344	291	527	489	314	302	364	4,245
最高月齢	36.7	33.4	35.3	33.7	36.0	32.9	32.9	33.1	34.2	35.6	33.5	32.7	

## 2. と畜検査結果に基づく措置

### (1) 獣畜のと殺禁止又は廃棄したものの疾病別内訳

畜種	牛			とく			馬			豚			めん羊			山羊			
	措置	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄
処分実頭数			4	2,802							108	32,633							
細菌病	炭疽			/			/			/			/			/			/
	豚丹毒	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	サルモネラ症			/			/			/			/			/			/
	結核病																		
	ブルセラ病						/	/	/										
	破傷風			/			/												
	放線菌症	/		4	/			/			/			/			/		
	その他																		
リケッチャ・ウケイルス病	豚コレラ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	その他																		
原虫病	トキソプラズマ病			/			/			/			/			/			/
	その他																		
寄生虫病	のう虫病																		
	ジストマ病	/		7	/			/			/			/			/		
	その他											6,128							
その他の疾病	膿毒症			/			/			/	87	/		/		/		/	
	敗血症			/			/			/	19	/		/		/		/	
	尿毒症		2	/			/			/		/		/		/		/	
	黄疸		1	5								2							
	水腫		1	174								729							
	腫瘍			1								8							
	中毒諸症			/			/			/		/		/		/		/	
	炎症又は炎症産物による汚染	/		6,694	/			/		/	2	49,825	/		/		/		
	変性又は萎縮	/		459	/			/		/		2,554	/		/		/		
	その他			1,509								11,420							
計			4	8,853							108	70,666							

(2) 一部廃棄したものの病類別内訳

病類		畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
消化器系	肝 肝 蛭 症		7					
	肝 間 質 炎					3,685		
	肝 膿 瘍		147			13		
	肝 包 膜 炎		66			2,050		
	胆 管 炎		186					
	肝 炎		65			471		
	褪 色 肝		435			4,282		
	脂 肪 肝							
	肝 硬 変		5			6		
	肝 富 脈 斑							
	肝 出 血 斑		780					
	鬱 血 肝		4					
	鋸 屑 肝		176					
	肝 腫 瘍							
	胃 炎		862			453		
	創 傷 性 胃 炎							
	胃 潰 瘍					9,578		
	鼓 張 症		2					
	小 腸 炎		862			3,143		
	大 腸 炎		866			3,143		
	大 腸 粘 膜 変 色							
	腸 間 膜 脂 肪 壊 死		24					
	腸 間 膜 リンパ 乾 酪 変 性					64		
	腸 リンパ 壊 死							
	腸 間 膜 水 腫		2			21		
	腸 間 膜 膿 瘍		3			1		
	直 腸 脱					30		
	鎖 肛					1		
	回 虫 寄 生					2,443		
	腸 気 泡 症							
	膈 臓 炎							
	へ ル ニ ア					348		
	腹 膜 炎		19			1,740		
直 腸 周 囲 脂 肪 壊 死		22						
呼吸循環器系	肺 炎		54			10,413		
	肺 膿 瘍		7			3,617		
	胸 膜 炎		18			4,754		
	血 液 吸 入 肺					3,783		
	異 物 吸 入 肺							
	肺 気 腫		11			2,011		
	肺 水 腫							
	心 外 膜 炎		8			2,407		
	心 内 膜 炎					18		
	心 内 膜 出 血							
	心 筋 出 血							
	心 筋 変 性							
	心 膿 瘍							
	心 筋 炎		2			1		
	横 隔 膜 水 腫		7			1		
	横 隔 膜 膿 瘍		28			35		
	横 隔 膜 筋 肉 出 血							
	横 隔 膜 筋 肉 変 性		1					
	横 隔 膜 炎							
	縦 隔 膜 水 腫		10					
	縦 隔 膜 膿 瘍		4					
	縦 隔 膜 筋 肉 出 血							
	縦 隔 膜 炎							
脾 う っ 血								
脾 膿 瘍								
脾 腫					2			
脾 出 血 梗 塞								

病類	畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
泌尿生殖器系	腎炎	6			57		
	腎膿瘍	16			9		
	腎嚢胞				1,189		
	腎包膜炎				1		
	腎血腫				1		
	腎脂肪壊死	288			1		
	腎脂肪変性				1		
	腎脂肪腫瘍	1					
	腎脂肪水腫	16					
	腎結石	28					
	膀胱炎	25			3		
	膀胱結石	21					
	膀胱破裂	4					
	尿道炎	15			1		
	尿道結石	16					
	妊娠子宮死胎				27		
	卵巣腫瘍				4		
	卵巣嚢腫				4		
	子宮内膜炎				3		
	子宮漿膜炎				1		
	子宮筋腫				1		
	子宮脱				1		
	膣脱						
乳房炎				2			
皮膚運動器系	皮膚炎	1					
	角損傷	1					
	四肢骨折	7			186		
	その他骨折	7			33		
	軟骨剥離	1					
	化骨形成				1		
	脱臼	5			93		
	関節炎	28			1,054		
	四肢膿瘍	6			723		
	その他膿瘍	22			2,613		
	筋肉水腫	137			704		
	筋肉変性	88			1,111		
	筋肉出血	13			204		
	褥創	1			2		
	打撲傷	584			2,387		
	咬傷				656		
	挫傷				1		
	火傷				35		
	外傷	1			9		
	切傷				2		
	脂肪変性	36			184		
	脂肪水腫				3		
	腫瘍				1		
血腫				4			
メラノーマ	1			5			
炎症							
その他	放線菌症	4					
	奇形	199			833		
	軽度の黄疸	5			2		
抗生物質陽性							

(3) 過去10年間の疾病別全部廃棄の推移（と畜場法・食品衛生法による）

疾病名	年度											合計
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
牛	敗血症	2		4	1	4	1	2	3	4		21
	膿毒症									1		1
	尿毒症	10	9	7	13	10	7	6	8	2	2	74
	高度の黄疸	2	2		2	2	1	2	6	1	1	19
	高度の水腫		1		2		1	1	1		1	7
	白血病	1	3	2	2	4	5	2	2	3		24
	中毒諸症											0
	炎症又は炎性産物等による汚染		1									1
	腫瘍						2					2
	抗菌性物質等残留											0
	合計	15	16	13	20	20	17	13	20	11	4	149
	豚	敗血症	19	32	23	25	34	7	12	15	13	19
膿毒症		71	81	58	91	91	112	89	95	78	87	853
豚丹毒		1	8	5	1							15
尿毒症		3	2	2	6	6	5	1	2	1		28
高度の黄疸		3				1				3		7
白血病								1				1
熱性諸症												0
抗菌性物質等残留												0
炎症又は炎性産物等による汚染											2	2
その他		1	2	1	4	6	6	5	11	8		44
合計		98	125	89	127	138	130	108	123	103	108	1149



### 3. 精密検査実施状況

#### (1) 精密検査件数

畜種	項目 病類	検査頭数	精密検査内容				原虫その他	全部廃棄頭数	
			細菌	病理	理化学				
					血液検査	その他			
牛	尿毒症	37			31	9		2	
	黄疸	7			7	1		1	
	水腫	1			1	1		1	
	炎症								
	白血病その他	93			93	32			
豚	敗血症	状状心内炎	19	19		1			19
		その他							
	尿毒症	2			2				
	黄疸	1			1				
	膿毒症	3			3	3		3	
	白血病								
	豚丹毒								
	変性または萎縮								
	炎							2	
中毒									
その他	27			27	27				
総計		190	19	0	166	73	0	28	

#### (2) 残留抗菌性物質検査件数

##### I 病畜検査

畜種	検査頭数	検査検体数	陽性検体数	
			筋肉	腎臓
牛	41	82	0	0
豚	31	62	0	0
合計	72	144	0	0

##### II 繁殖豚検査

検査頭数	陽性頭数
429	0

#### (3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング調査件数

検査項目名	畜種	検査検体数	検査結果
抗菌性物質	牛	182	全て基準値以下
	豚	182	
内部寄生虫用剤	牛	24	
	豚	24	

#### (4) 枝肉の微生物汚染調査件数

畜種	検査頭数	検査検体数	検査項目					
			一般生菌数	大腸菌群数	0-157	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター属菌
牛	125	250	250	250	250	250	250	250
豚	125	250	250	250	250	250	250	250
計	250	500	500	500	500	500	500	500

#### (5) グリア繊維性酸性タンパク (GFAP) 残留量調査件数

検査対象	検査頭数	検査検体数
牛枝肉	40	80

## 第3章 食鳥検査業務

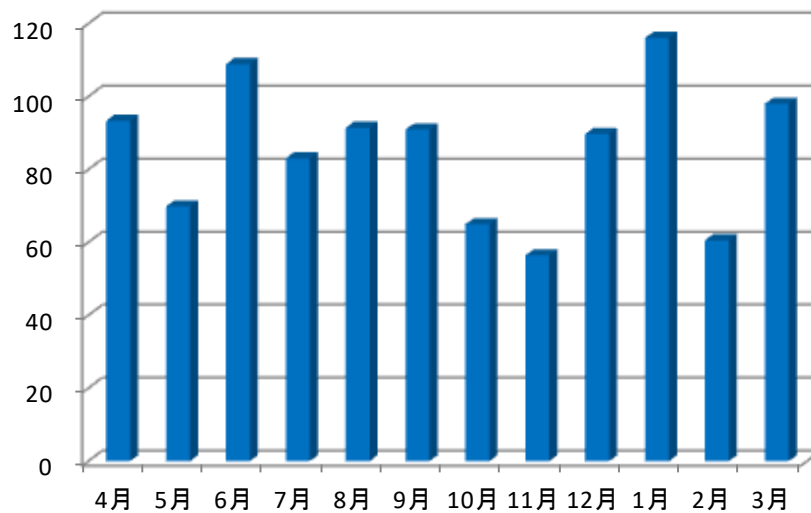
# 1 検査羽数

## (1) 月別食鳥検査羽数

月	ブロイラー	成鶏	あひる/七面鳥	計
4月	0	93,381	0	93,381
5月	0	69,864	0	69,864
6月	0	108,882	0	108,882
7月	0	83,053	0	83,053
8月	0	91,419	0	91,419
9月	0	90,973	0	90,973
10月	0	64,992	0	64,992
11月	0	56,452	0	56,452
12月	0	89,743	0	89,743
1月	0	116,064	0	116,064
2月	0	60,611	0	60,611
3月	0	97,997	0	97,997
	0	1,023,431	0	1,023,431

## 月別食鳥検査羽数

羽数 (×千)

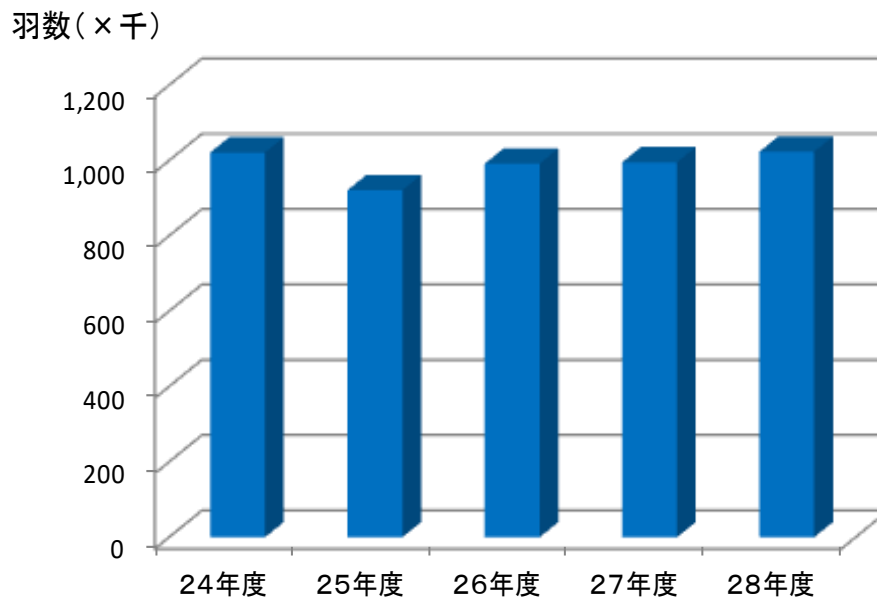


## (2) 年度別検査羽数推移

年度	ブロイラー	成鶏	あひる/七面鳥	検査羽数
24年度	0	1,021,146	0	1,021,146
25年度	0	921,177	0	921,177
26年度	0	991,665	0	991,665
27年度	0	995,176	0	995,176
28年度	0	1,023,431	0	1,023,431

\*ブロイラー処理施設が平成21年10月1日より休業、平成22年8月6日より廃止

### 年度別検査羽数(成鶏)



## 2 精密検査実施状況

### (1) 微生物汚染調査

検査項目	と体（肉類等）	手指、作業器具等	車両、輸送容器
一般生菌数	138	18	5
大腸菌群数	138	18	5
黄色ブドウ球菌数	138	18	5
カンピロバクター属菌	138	18	5
サルモネラ属菌	138	18	5

### (2) 残留抗菌性物質検査件数

検体	検査検体数	陽性検体数
腎臓	41	0

### (3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング検査件数

検査項目	検査検体数	検査結果
抗菌性物質	8※	全て基準値以下
内部寄生虫用剤	3	

※延べ検体数は28

#### 内訳

検体	延べ検体数	検査項目	備考
鶏の筋肉	3	フルベンダゾール	内部寄生虫用剤
	4	スルファジミジン	合成抗菌剤
	4	ナイカルバジン	合成抗菌剤
	4	スルファジメトキシム	合成抗菌剤
	4	スルファメラジン	合成抗菌剤
	4	スルファキノキサリン	合成抗菌剤
	4	クロピドール	合成抗菌剤
	2	テトラサイクリン系	抗生物質
	2	ベンジルペニシリン	抗生物質
合計	31		

### 3 検査廃棄処分したものの内訳

(1) 食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ、内臓の摘出禁止または廃棄したものの原因

平成28年度

検査羽数		ブロイラー			鶏			あひる／七面鳥		
		0			1,023,431			0		
処分実羽数		禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄
処 分 実 羽 数					23,489	1,411	4,438			
疾	ウ	鶏痘			0	0	0			
	イ	伝染性気管支炎			0	0	0			
病	ロ	伝染性喉頭気管炎			0	0	0			
	ミ	ニューカッスル病			0	0				
別	ズ	鶏白血病			0	0				
	ア	封入体肝炎			0	0				
羽	病	マレック病			0	0				
		その他			0	0				
数	疾	大腸菌症			0	0				
	病	伝染性コリーザ			0	0	0			
別	の	サルモネラ症			0	0				
	羽	ブドウ球菌症			0	0				
疾	病	その他			0	0				
	数	毒血症			0	0				
別	の	膿毒症			0	0				
	羽	敗血症			0	0				
疾	病	真菌症			0	0				
	数	原虫病			0	0	0			
別	の	寄生虫病			0	0	0			
	羽	変性			0	0	3			
疾	病	尿酸塩沈着症			0	0	0			
	数	水腫			0	0	0			
別	の	腹水症			9,375	493				
	羽	出血			0	0	2,666			
疾	病	炎症			743	74	290			
	数	萎縮			0	0	0			
別	の	腫瘍			1,421	285	0			
	羽	臓器の異常な形等			0	0	0			
疾	病	異常体温			0	0				
	数	黄疸			1,820	41				
別	の	外傷			218	5	1,479			
	羽	中毒諸症			0	0				
疾	病	削瘦及び発育不良			8,872	502				
	数	放血不良			1,011	11				
別	の	湯漬過度			22	0				
	羽	その他			7	0	0			
計		0	0	0	23,489	1,411	4,438	0	0	0

## (2) 月別疾病羽数・処分羽数

平成28年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
処理羽数	93,381	69,864	108,882	83,053	91,419	90,973	64,992	56,452	89,743	116,064	60,611	97,997	1,023,431
死鳥	334	173	448	231	336	257	66	100	120	240	205	286	2,796
禁止	2,195	1,370	2,477	1,868	2,225	1,589	1,374	1,041	2,476	2,409	1,984	2,481	23,489
全部廃棄	0	157	348	0	105	0	121	162	268	250	0	0	1,411
一部廃棄	637	332	435	358	338	496	259	272	314	349	194	454	4,438
禁止の内訳													
著しい削瘦	622	395	806	604	965	532	551	528	979	994	1,045	851	8,872
腹水症	951	496	992	867	965	654	552	331	1,097	1,037	463	970	9,375
腹膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
炎症	75	36	46	93	58	21	26	36	59	54	38	49	591
外傷	23	16	23	17	12	12	8	2	10	31	33	31	218
皮膚病	1	16	18	32	6	4	7	17	10	32	4	5	152
放血不良	183	25	42	58	36	219	35	38	26	84	40	225	1,011
黄疸	198	282	407	81	49	64	49	10	148	47	233	252	1,820
腫瘍	136	98	142	115	133	82	145	76	146	125	126	97	1,421
その他	6	6	1	1	1	1	1	3	1	5	2	1	29
全部廃棄の内訳													
著しい削瘦	0	37	124	0	38	0	50	45	112	96	0	0	502
腹水症	0	46	131	0	17	0	50	53	103	93	0	0	493
腹膜炎	0	7	30	0	6	0	4	0	5	3	0	0	55
大腸菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ブドウ球菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黄疸	0	2	17	0	0	0	2	2	0	18	0	0	41
皮膚病	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
マレック病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷	0	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5
放血不良	0	4	4	0	0	0	1	0	0	2	0	0	11
炎症	0	2	1	0	0	0	1	1	4	6	0	0	15
白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DFD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
敗血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫瘍	0	57	36	0	44	0	12	61	43	32	0	0	285
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一部廃棄の内訳													
変性	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
出血	403	214	277	196	217	297	147	148	193	188	113	273	2,666
炎症	51	15	34	64	12	21	16	19	21	21	5	11	290
腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷	183	103	121	98	109	178	96	105	100	140	76	170	1,479
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※前ページ項目の「炎症」は、本ページ 項目の「腹膜炎」と「炎症」と「皮膚病」の合計

## 第4章 その他の事業



## 1 衛生講習会等の実施状況

(1) 枝肉運送業者に対し、冷蔵車両の衛生状態等の確認をするとともに、個別に衛生指導を行った。

(2) 衛生管理と食の安全への意識向上啓発

- ・ 場内衛生担当者会議（参加団体9団体） 4回
- ・ 「食肉衛生検査所通信」の発行 4回

(3) HACCPに関する講習会 1回実施

場内業者に対し、HACCPによる衛生管理の基準と設定について説明を行った。

## 2 危機管理演習等の実施状況

(1) 食鳥処理業者が整備した、大規模処理場において高病原性インフルエンザ(以下、「HPAI」という。)が発見された場合の対応を示す「処理場 HPAI発見時防疫マニュアル」を検証するため、岐阜県中央家畜保健衛生所と連携して防疫実施演習を行い、課題について検討協議した。

(2) と畜関係者等に対し、豚処理ラインで炭疽を発見した場合の危機管理体制を強化するため、危険性や消毒方法等についての講習会を行うとともに、緊急時の必要な対応について再確認した。

## 第5章 調査研究

1. 調査研究発表一覧

年	月	発表演題	発表場所
13	2	豚の大腸における水腫様病変の病理学的検討	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	2	牛の内臓の細菌汚染状況について	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	2	牛内臓から検出された病原細菌に関する検討	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	10	牛内臓搬送ラインの改良による肝臓細菌汚染防止効果について	第12回全食協東海北陸ブロック研修会
14	2	ブロイラー肝臓の細菌汚染対策について	平成13年度厚生労働省食鳥衛生検査技術研修会
14	11	豚の飼養管理とサルモネラ属菌保有状況との関係	第13回全食協東海北陸ブロック研修会
15	2	ELISAを用いた抗生物質検査法について	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	食鳥由来 <i>Salmonella Infantis</i> のRAPDを用いた解析	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	食鳥処理場における微生物汚染調査と衛生指導について	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	豚丹毒抗体調査とPCRを用いた迅速診断	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	10	豚枝肉の微生物汚染状況について	第14回全食協東海北陸ブロック研修会
16	2	豚枝肉の微生物汚染原因についての一考察	平成15年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
16	2	食鳥処理場における食鳥と体および食鳥肉の微生物汚染状況	平成15年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
16	11	Haccpper水を用いた微生物汚染軽減の検討	第15回全食協東海北陸ブロック研修会
16	2	食鳥処理場における衛生指導	平成16年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
17	9	BSEスクリーニング検査陽性時の場内衛生対策演習について	第16回全食協東海北陸ブロック研修会
18	1	牛と畜時における、と体不動化装置を用いたピッシング廃止の取組について	平成17年度食肉衛生技術研修会
19	1	と畜場における、カンピロバクター属菌の汚染実態調査	平成18年度食肉衛生技術研修会
19	11	フルベンダゾール試験法アルミナ酸性カラム精製時におけるsoak法の検討	第18回全食協東海北陸ブロック研修会
20	2	ブロイラー肝臓の次亜塩素酸ナトリウムによる細菌汚染振盪効果について	平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
20	10	QuEChERS法（クエッチャーズ法）を応用した豚肉中のスルファジミジンの迅速分析法の確立	第26回全国食肉衛生検査所協議会 理化学部会研修会
20	11	炭疽の発生を想定した演習の実施について	第19回全食協東海北陸ブロック研修会
20	11	豚枝肉の汚染状況の把握と衛生確保に向けての取り組み	第19回全食協東海北陸ブロック研修会
21	2	名古屋コーチンのサルモネラ、カンピロバクター保菌状況調査	平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
21	10	岐阜市食肉地方卸売市場における豚丹毒の発生状況とその分離菌株について	第20回全食協東海北陸ブロック研修会
22	2	食鳥処理場へ搬入された鶏のサルモネラ、カンピロバクター保菌状況調査	平成21年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
22	10	弱酸性次亜塩素酸水を用いた枝肉微生物汚染制御（報告）と今後の応用に関する検討	第21回全食協東海北陸ブロック研修会
23	2	成鶏から分離されたカンピロバクターのニューキノロン系薬剤耐性	平成22年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
24	1	SOPの映像化による、残留動物用医薬品検査法の伝達	平成23年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
24	10	口蹄疫の発生を想定した演習実施について	第23回全食協東海北陸ブロック研修会
26	1	管内食鳥処理場の衛生管理向上への取り組み	平成25年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
26	10	豚枝肉の細菌数軽減に向けた洗浄方法の検討	第25回全食協東海北陸ブロック研修会
27	10	牛の多発性筋肉出血（スポット）発生に関する調査	第26回全食協東海北陸ブロック研修会
28	10	食鳥処理場における高病原性鳥インフルエンザ防疫体制構築に向けた取り組み	第27回全食協東海北陸ブロック研修会

## 2. 平成28年度調査研究

### 食鳥処理場における高病原性鳥インフルエンザ防疫体制構築に向けた取り組み

岐阜市保健所食肉衛生検査所 野村 浩司 ○二村 圭介  
桜井 彰二 松田 暁

#### はじめに

高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」という。）は、家きんに対する感染力の強さから、国際的に最も警戒すべき家畜の伝染病の一つとなっている。また、人への新型インフルエンザへの変異も指摘されている。

平成22年度に宮崎県の大規模食鳥処理場（以下「処理場」という。）においてHPAIり患鶏が全国で初めて確認されており、食鳥肉流通の拠点となる処理場から突発的にHPAIが発見された場合、農政関係部局（家畜保健衛生所等）と連携し、迅速かつ最小限の被害に抑える必要がある。

そこで今回、処理場、農政関係部局及び岐阜市保健所食肉衛生検査所（以下「検査所」という。）が一体となり防疫措置を講じる必要があると考え、処理場を所管する岐阜県の中央家畜保健衛生所（以下「家畜保健所」という。）と連携し、検査所が食鳥処理業者による処理場HPAI発見時防疫マニュアル（以下「処理場マニュアル」という。）の作成を指導したのでその概要を報告する。

#### 方法

##### 1 研修会の開催（平成26年10月）

研修会は、主たる対象を処理場作業員とし、家畜保健所の家畜防疫員がHPAIの特徴、発生状況、家畜伝染病予防法（以下「家伝法」という。）の改正の要旨等について説明した。

また、食鳥検査員（以下「検査員」という。）が、処理場でのHPAI発見直後から防疫措置完了までの対応について、平成23年1月に宮崎県の処理場でHPAIが発見された際の対応を参考にし、家伝法及び食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律（以下「食鳥処理法」という。）に基づく措置を時系列に区分整理したHPAI発見時想定シナリオ（以下「想定シナリオ」という。）を作成し、講習を行った。

##### 2 シナリオシミュレーションによる机上演習の実施（平成27年10月）

想定シナリオをもとに、検査員が簡易スクリーニング検査（以下「簡易検査」という。）を実施し陽性と判断された時点から関係機関への通報、緊急消毒の準備までを時系列でシナリオ化したHPAI発見時訓練シナリオ（以下「訓練シナリオ」という。）を作成し、

処理場作業員、家畜防疫員及び検査員が各担当に分かれ、場面ごとに読み上げながら机上演習を実施した。

### 3 処理場マニュアルの作成指導（平成28年2月）

研修会及びシナリオシミュレーションによる机上演習において発生した疑義は、処理場、家畜保健所及び検査所との間で協議し、処理場マニュアルに反映させるよう指導した。本マニュアルは段階ごとに図表などを織り交ぜ、緊急時での自分の役割が理解しやすいものとさせた。

### 成績（結果）

研修会の実施により、処理場作業員が専門的な知識を理解、習得し、行政との情報の共有の必要性を理解してもらうとともに危機管理意識の向上を図ることができた。また、緊急事態におけるイメージを形成し、防疫措置等の対応を理解することもできた。

さらに、シナリオシミュレーションによる机上演習により、各自の役割、行動について、より認識を深めることができた。

研修会および机上演習を通して処理場、家畜保健所及び検査所による意見交換の中で、家伝法と食鳥処理法における解釈等で、以下の3点が問題点とされた。

- ① 異常鶏発見から検査員による簡易検査実施時の生鳥処理の扱い
- ② 消毒エリアの割り当て
- ③ 消毒を開始するタイミング

これらを協議し、以下の対応に決定した。

- ① 異常鶏発見から検査員による簡易検査実施時の生鳥処理の扱い  
懸鳥した放血前の鶏を可能な限り輸送カゴに戻し、PCR検査の結果が出るまで他のロットの鶏と区別して保管することとした（図1）。
- ② 消毒エリアの割り当て

平成27年の高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥イ

ンフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針の改正に伴い、処理場での消毒の公衆衛生部局と家畜衛生部局の割り当てが追加されたことから、家畜保健所は、生きた家きんが扱われる場所の消毒を指示し、それ以外の場所については検査所が消毒を指示することとし、処理場施設敷地内における消毒エリアを具体的に設定した（図2）。

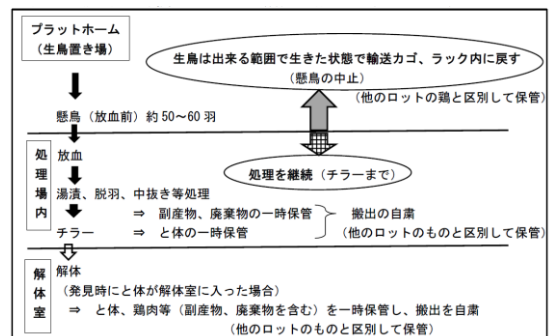


図1 生鳥処理の扱い

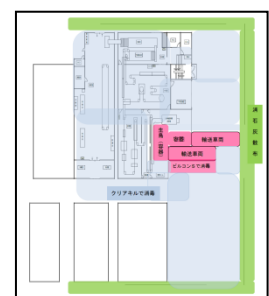


図2 消毒エリアの割り当て

### ③ 消毒を開始するタイミング

検査所が指示する消毒場所については、検査員が行う簡易検査が陽性となった段階で消毒の準備を行い、家畜保健所が行う簡易検査が陽性であった時点で、PCR検査の結果を待たずに消毒を開始することとした。

処理場マニュアルは、HPAIが処理場で確認された場合に適切な防疫措置を実施するための対応をまとめたものであるが、異常鶏搬入防止措置から始まり、連絡体制、異常鶏発見時の対応措置、作業員等への感染防止対策・健康調査等及び浄化槽への排水及び工場排水の確認等についても網羅されている（図3）。

第1	目的
第2	異常鶏搬入防止措置
第3	連絡体制
第4	異常鶏発見時の対応措置
1	発見時から通報まで
2	発生時の対応
3	家畜保健衛生所の防疫措置への対応
第5	作業員等への感染防止対策および健康調査等
第6	浄化槽への排水及び工場排水の確認
第7	その他
第8	附則

図3 処理場マニュアル目次

### 考察

当検査所では、2名の専任の検査員が処理場にほぼ毎日常駐し、検査業務及び監視業務を行っており、処理施設、作業員の動線及び鶏を含む製品等の動きをよく把握している。

今回、家畜保健所の協力を得ながら、防疫体制構築に向けた取組みの一環として、検査所が主導して処理場マニュアルの整備を指導した。処理場にり患鶏を搬入させないことが原則であるが、万が一、処理場においてHPAIの突発的な発見があった場合、検査所が行う簡易検査で陽性となった時点から瞬時に防疫措置を講ずるための処理場マニュアルの整備をさせることができた。これにより被害の拡大を最小限に食い止めることが可能となる。

今後も引き続き家畜保健所との連携を図りながら、実地演習等の企画、実施により、処理場マニュアルの検証を重ね、処理場における防疫体制の構築を目指したい。

## 第 6 章 付 表

# 1 岐阜市食肉地方卸売市場概要

## (1) 概 要

ア 位 置	岐阜市境川5丁目148番地		
イ 敷 地 面 積	21,879.93 m <sup>2</sup>		
ウ 建 物 面 積	7,814.73 m <sup>2</sup>		
エ 能 力	と畜処理能力(1日)	大動物 75頭	小動物 600頭
	汚水処理能力(日量)	1,500m <sup>3</sup>	
	冷蔵能力(小動物に換算)	1,050頭	
	汚泥脱水能力	4,000kg	
	収容能力	大動物 115頭	小動物 560頭
オ 建 築 年 月 日	昭和42年11月 岐阜市食肉センターとして竣工		
カ 建 築 物			

名 称	面 積	備 考
1. 本 館 棟	4,105.78 m <sup>2</sup>	大動物と室 小動物と室 冷蔵庫 懸肉室兼せり場
2. 事 務 棟	381.60 m <sup>2</sup>	大動物解体室 小動物解体室
3. 控 室 棟	132.46 m <sup>2</sup>	内臓処理室 枝肉処理場
4. 作 業 員 控 室	64.80 m <sup>2</sup>	大動物係留所 小動物収容所
5. 調 理 師 控 室	64.80 m <sup>2</sup>	市管理事務所 関係事務所
6. 現 業 員 控 室	39.58 m <sup>2</sup>	管理人住宅 買受人控室
7. 倉 庫	48.60 m <sup>2</sup>	会議室
8. 病 畜 と 室	50.00 m <sup>2</sup>	
9. 焼 却 炉 上 屋	98.99 m <sup>2</sup>	
10. 洗 車 場	64.00 m <sup>2</sup>	
11. 汚 水 浄 化 槽	1,942.40 m <sup>2</sup>	
12. ブ ロ ア ー 室	49.17 m <sup>2</sup>	
13. 汚 泥 処 理 場	173.00 m <sup>2</sup>	
14. ポ ン プ 室	9.00 m <sup>2</sup>	
15. 廃 棄 物 処 理 棟	59.42 m <sup>2</sup>	
16. お が く ず 置 場	30.00 m <sup>2</sup>	
17. 受 付 棟	4.53 m <sup>2</sup>	
18. 冷 蔵 庫 棟	496.60 m <sup>2</sup>	

## キ 機 構

- 岐 阜 市 施設の維持管理及び業務の指導監督  
食肉検査(岐阜市保健所食肉衛生検査所)
- 卸 売 業 者 株式会社 岐阜県畜産公社(荷受機関)  
授權資本金 5,200万円 払込済資本金 4,950万円  
県 700万円 市 700万円 全農 1,350万円 県信連 400万円  
県食肉連 1,700万円 県家畜商組合 100万円  
岐阜県卸売市場条例に基づき、市場を通じ食肉の委託販売を行う機関で  
あり、食肉の販売代金を基準とする手数料を収受し業務を運営する者
- 買 受 人 市長の承認を受け、本市場でのせり売りに参加し食肉の買受けをする者
- 付 属 営 業 人 市長の承認を受け、本市場での市場業務に附帯した業務を行う者
- 日 本 食 肉 協 会 牛、豚の枝肉の規格格付けを行う者